

KIPPオンライン講座
対人関係と組織の心理学 第11講義

組織の病理

パート2 神経症的な組織

講師 川畑直人

(教育学博士・臨床心理士・公認心理師・WAWI精神分析家)

パート2 神経症的な組織

神経症という個人の精神病理を表す概念は、組織全体の特徴を表すのにも使われている。ここでは、Kets de Vries & Millerの指摘を紹介する。

第11講義 内容

- ・パート1 組織に発生する問題行動
- ・パート2 神経症的な組織
- ・パート3 問題のあるリーダー
- ・パート4 「自由からの逃走」そして権威主義的性格

神経症とは

- ・精神医学の事典では、「心因性に生じる心身の機能障害」という文言が、定義の冒頭にあがる精神疾患の名称。
- ・DSM-5など、原因よりも症状記述に重きを置く、現代の精神科診断マニュアルでは使われなくなった。
- ・しかし、理にかなわない、不合理な、人間の行動や思考の傾向を表すために、「神経症的」という言葉が使われる。
- ・例) 度を越したきれい好き。いつも自分はだめな人間だと考える。不必要にオーバーな感情表現で訴える。など。

神経症的な組織

- 一定の傾向を持った症状の集まりが個人の精神病理を形作るように、類似したパターンの戦略や構造上の欠陥が、組織の病理としてまとまりを見せる。
- 特に、経営者、経営トップのパーソナリティの問題が、組織全体の方略、構造上の欠陥として蔓延しやすい。
- 1) Danny Miller; Neurotic Organizations (Kets de Vries and Miller, 1984)



神経症的な組織1

被害妄想型 Paranoid

- 疑い、不信、過敏、過剰警戒。
- 隠れた動機への過剰な関心。
- コントロールと冷徹な合理的行動様式の維持に努める。
- 無意識のマインド: 「誰も信頼できない」「強大な力が陥れようとしている」「自分を守らねば」
- 危険: 疑いを確証するために現実を歪める。防衛的であるために臨機応変な対応ができなくなる。

神経症的な組織2

強迫型 Compulsive

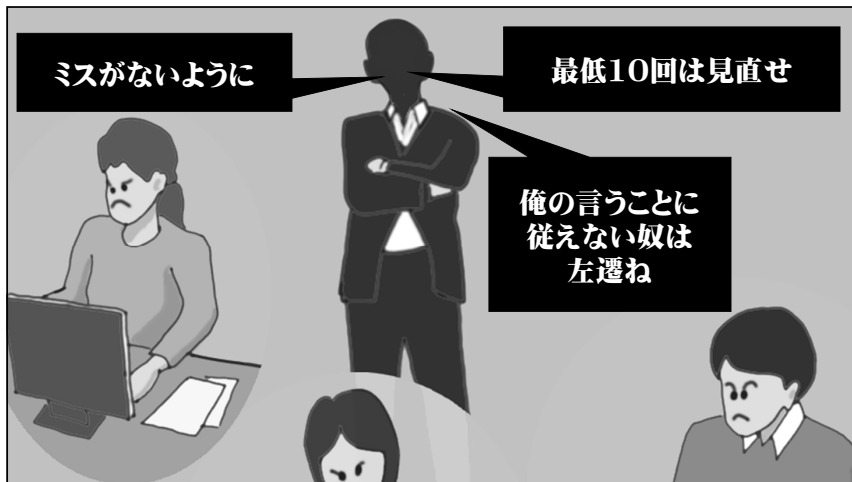
- 完全主義。細部にこだわる。
- 人間関係における力関係への過剰な関心。
- ドグマティック、ストレスフル、几帳面。
- 無意識のマインド: 「出来事に振り回されたくない」「全てを支配し統制しなければ」
- 危険: 内向き。不決定と先延ばし。失敗を恐れる。計画からそれることができない。規則と規制への過剰な依存。大局観を持てない。



神経症的な組織3

演技型 Histrionic (dramatic)

- ・劇化。過剰な感情表出。
- ・自分への関心。自己愛的。
- ・刺激的な活動の志向。焦点を欠く傾向。
- ・無意識のマインド:「注目を浴びて、影響力のある人に自分を印象づけたい」
- ・危険:表面的、暗示の受けやすさ。事実に基づかない、思いつきでの行動。小事に対する過剰反応。周りは利用されている感覚を受ける。





神経症的な組織4

抑うつ型 Depressive

- ・罪悪感、無価値感、自己批難、不適格感に彩られる。
- ・外的支配に捉えられることで、希望なし、無力感が強く、興味ややる気を失う。
- ・無意識のマインド:「自分の人生を変えることはできない」「とにかく自分は十分でない」
- ・危険:過剰に悲観的にみえる。集中して、物事に当たることができない。行動の抑制。決定のできなさ。

神経症的な組織5

分裂質型 Schizoid

- ・切り離しdetachment、無関与、ひきこもり。
- ・疎遠な感覚sense of estrangement。
- ・無興奮、無関心、現在と将来に興味を持てない。冷たく、感情が乏しい。
- ・無意識のマインド:「世界は何も満足をくれない」「他者と交流すると失敗するので、関わらない方がいい」
- ・危険:情緒的隔離が他者への依存欲求にフラストレーションを与える。困惑と攻撃性を高める結果に。

神経症的な組織5

分裂質型 Schizoid

- 切り離しdetachment、無関与、ひきこもり。
- 疎遠な感覚sense of estrangement。
- 無興奮、無関心、現在と将来に興味を持てない。冷たく、感情が乏しい。
- 無意識のマインド:「世界は何も満足をくれない」「他者と交流すると失敗するので、関わらない方がいい」
- 危険:情緒的隔離が他者への依存欲求にフラストレーションを与える。困惑と攻撃性を高める結果に。

参考文献

- 1) 加藤正明他編 2001 精神医学事典 弘文堂
- 2) Samuel, Y. (2010) Organizational Pathology. NJ: Transaction Publishers.
- 3) Kets de Vries, M. F. R. & Miller, D. (1984) Neurotic Organizations. Jossey-Bass.
- 4) Kernberg, O. F. (1994) Leadership Style and Organizational Pranoiaogenesis. In Oldham & Bone ed. Paranoia; New Psychoanalytic Perspective. International University Press. Pp.61-79
- 5) フロム, E. 1941 日高六郎訳 1951 自由からの逃走 東京創元社

